

# 辰野町無形文化財 「平出の騎馬行列」

編集：平出の騎馬行列保存会



露払い	色傘	重藤	挟箱	槍	殿様	若党			
つゆはらい	いろがさ	しげとう	はさみばこ	やり	とのさま	わかとう			
		大鳥毛（赤熊）	挟箱	槍	大僧（曲傘）	小僧（草履取り）	杓篋		
		おとりげ（しゃぐま）	はさみばこ	やり	おおぞう（きょくがさ）	こぞう（ぞうりとり）	くつかご		

したにー したにー エーエー これはさとーなァ エーエー あれはさとーなァ

この騎馬行列は“凱旋騎馬”といって、戦いに勝利した殿様が自分の領地に凱旋して戻る時の行列を再現している。「平出の騎馬行列」は町の重要な無形民俗文化財で、七年目毎に行われる法性神社の御柱大祭に奉納される。

江戸時代を彷彿させる騎馬行列は、その頃の煌びやかな衣装に着飾った殿様から奴（やっこ）まで凛々しく、道中や本陣への振り込み・振り出しの際に行われる数々の所作は見るものを楽しませる。勇壮な御柱祭に華麗な花を添えるのがこの騎馬行列である。

御柱祭と騎馬行列との関わりは、江戸時代に大名などによる騎馬が御神木を警護したことに始まり、明治になり子供を殿様にした今日のような形になった。また大名が参勤交代の際に行列に雇った奴衆や馬方などが、主街道の宿場周辺に居たことも背景にあると思われる。

初めて法性神社に騎馬行列が奉納されたのは明治十七年で、当時は長地東堀（現岡谷市）の騎馬行列を買って奉納した。明治四十一年、村の若衆たちが自分たちの手で奉納しようという気運が高まり、長地東堀より師匠を迎えて練習し見事目的を達成した。その後、幾多の困難を克服して百余年の長きにわたり上平出と上野の若者たちによって受け継がれている。

参考文献：「平出の騎馬行列」騎馬行列調査委員会、区制百周年記念「平出区誌」

